

カワキタが 河北である理由

資料請求限定Ver.

※インタビューは2019年11月実施

IMAGE

Q1：河北総合病院で研修を開始して8か月。研修開始前と今の河北のイメージが変わったところは？

IP	5.63 g/dL	Cr	3.63 mg/dL
Alb	2.92 g/dL	Na	135.9 mEq/L
AST	18 IU/L	K	3.00 mEq/L
ALT	16 IU/L	Cl	101.7 mEq/L
LDH	205 IU/L		
ALP	188 IU/L		
γGTP	12 IU/L		
HDL-cho	42.5 mg/dL		
LDL-cho	95.7 mg/dL		
TG	113 mg/dL		
BUN	9.5 mg/dL		
UA	2.5 mg/dL		
凝固			
PT	11.9 sec		
INR	1.00		
APTT	31.1 sec		

「臨床研修合同セミナー 2020 WINTER ~ The Case of The Year × 4病院」

GROW UP

Q2：4月と11月の自分を比較して、成長したところは？

▼中込 祐紀【岩手医科大学】

研修開始前はコモンディーズを満遍なく経験できるイメージで、研修が始まってからもそれを肌で実感していて、軽症から重症患者さんの初期対応、治療まで幅広く学べ、いい研修ができています。また、患者さんの治療のみならず、背景や家族構成などもより考えるようになりました。

▼友政 直也【東京慈恵会医科大学】

イメージは凄く変わりました。もともと二次救急という話を聞いていたので、重症の患者さんはほとんど診ないものと思っていました。しかし、三次救急レベルの患者さんが来ることもあり、内科管理は転送するため困難ですが、状態を落ち着けるまでは関与するので非常に勉強になると思いました。

▼堀江 祐以【東海大学】

正直自分ではあまりわからないです。けれど、色々な症例や人に主体的に触れたり、手技の回数を重ねることで、「これは経験した」「これは何回かやったことがある」という小さな自信は積み重なっていると思います。数をこなすことがすべてではないですが、数をこなさなければつかない自信もあります。その小さな自信によって、やってみようと思える範囲や、今後のアプローチの仕方に良い影響が出て、プラスのループができたらいいなあとと思います！

▼中込 祐紀【岩手医科大学】

患者さんやそのご家族との関わり方です。一人で行えることはかなり限られており、チーム医療をおこなうことにより医療の質の向上、医療ミスの防止につながることを学びました。また、積極的に人に聞いたり、興味があることを学ぶ姿勢はとても大事です。

▼林 有紗【島根大学】

病院見学で見ると言われているポイントはたくさんあると思いますが、研修を始めて特に大切だと思うことは3つあります。1つはカリキュラム。自分が将来考えている科が全くない病院だと、その科を研修することさえできないため、自ずと選択肢から外れてしまいかねません。少しでも興味のある科がある人は、その科を回れる病院がいいと思います。2つ目は働いている研修医が自分のなりたい理想に近いかどうか。そして3つ目は、一つ上の研修医達の雰囲気。やはりずっと過ごすことになる病院なので、雰囲気は自分に合っていていいな、と思えるような病院であることは大事だと思います。私はそれが、カワキタでした。

▼高橋 慎太郎【浜松医科大学】

指導医、研修医ともに忙しく、指導を受けられる時間が予想していたよりは少ないかな、と感じました。指導医が常に近くに来て、困った時にすぐ聞ける環境ではないと思うので、日々の業務で相当キツイなど思う時もあります。ただやはり、そこが成長の鍵でもあり、担当医として診療に関わることができるので、見学中心の研修よりは身につくものが多いのは確かです。

▼中田 実古乃【東邦大学】

変わりました。少し前までの河北は、早朝から夜中まで病院で仕事や勉強をしているような印象でした。先輩方も、教科書で学ぶ時間は少ないとおっしゃっていました。しかし、働き方改革なども相まって、今は教科書から学ぶ時間もあり、現場での実践はそのままで、とても心身共に余裕がある気がします。

▼内山 雄一郎【広島大学】

メジャー内科、外科を回り、多くのcommon diseasesを経験したので、一般的な病態に対しての対応が身につきました。日々の病棟や当直での診療において、自分の判断が進められる部分が増えてきて充実しています。

二〇二〇年二月十四日(金)、当院を含む都内四病院合同での研修医・指導医による合同セミナーが開催されました。当院は、堀江医師(一年目)が四病院のトップバッターとして登壇、「ウェルニッケ脳症」について発表いたしました。二〇分という制限時間の中、一年目とは思えない落ち着いた表情と堂々とした雰囲気、十九分四十七秒をしっかりと使い、終了。とても良い発表でした。

そしてなんと、会場にいる研修医・指導医による投票で、堀江医師の発表が今回の合同セミナーにおける「研修医が選ぶ最優秀発表者」に選ばれました。杉並区阿佐谷にある河北総合病院という場所で採られた一年目研修医の成長が、目に見える形で評価されたことを大変嬉しく思います。

臨床の現場のみならず、学会発表や勉強会、研修講義などにおいても、成長していく研修医の姿を見ることができ、今回の合同セミナーは、今後がとも楽しみになる発表でした。

はなす、まなぶ。